

《担当者名》 山下 建 濱本 有祐 権田 綾子 北田 文華

【概要】

本系統講義では、概念（総論）、創傷治癒（創傷の治癒過程、難治性皮膚潰瘍）、組織移植（皮膚移植、軟骨移植、皮弁術、複合組織移植など）、外傷（顔面外傷、熱傷）、再建外科（外傷・悪性腫瘍等の再建）、先天異常（口唇裂・口蓋裂、小耳症をはじめとする体表の各種先天異常）を中心に授業を行う。治療意義とその手技の概略を学び、形成外科が患者のQOL(Quality of Life)の向上に寄与する外科治療学であることを説明できる。

1. 形成外科の概念、対象疾患の病態や疫学を理解し、診療領域全般について概略を説明できる。
2. 創傷治癒、炎症、感染の機序と過程を理解し、臨床応用に向けた知識を習得できる。
3. 顔面の基本的な解剖、顔面外傷の症候、診断を習得し、基本的な治療法を説明できる。
4. 熱傷に対する初期管理、診断、治療法を理解し、保存的、および外科的治療法を説明できる。
5. 創傷処置、手術操作、縫合法、周術期管理など外科的治療法に関する基本を説明できる。
6. 各種悪性腫瘍切除後の組織欠損に対する再建外科について説明できる。
7. 唇裂・口蓋裂を含めた体表先天異常の発生過程を理解し、疾患の病態や治療法を説明できる。

【学修目標】

リハビリテーションが元々、ラテン語のHabil（有能、役立つ、生きる）という言葉から生まれ、病気や怪我などをした場合に元のHabilの状態に戻す、という意味であることから、形成外科が、リハビリテーションの概念に即し、身体の主に体表部分における変形、欠損に対して、機能的かつ整容的改善を目指す外科治療学であることを理解するために、熱傷・交通事故・労働災害の外傷、先天性形態形成不全、皮膚軟部組織腫瘍、整容・美容外科、各種悪性腫瘍切除後の再建の分野における治療意義とその手技の概略を学び、形成外科が患者のQOL(Quality of Life)の向上に寄与する外科治療学であることを説明できる。

1. 形成外科の診療領域全般について概略を説明できる。
2. 高加齢医療（アンチエイジング）の精神と各種美容外科手術について説明できる。
3. 創傷治療の基本、顔面外傷に対する形成外科治療、および熱傷の治療について説明できる。
4. “あざ”のレーザー治療、硬化療法について説明できる。
5. 様々な皮膚および軟部組織の悪性腫瘍の診断と治療について説明できる。
6. 各種悪性腫瘍切除後の組織欠損に対する再建外科について説明できる。
7. 唇裂・口蓋裂に対する治療について説明できる。
8. 頭蓋顔面および手指の先天異常に対する治療について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	形成外科学総論1	外傷(熱傷、顔面骨折)、先天異常(唇顎口蓋裂、小耳症、多指症)、皮膚軟部組織腫瘍(母斑、血管腫、皮膚癌)、美容外科(眼瞼部、乳房)、再建外科(頭頸部再建、乳房再建)、頭蓋顎顔面外科および手術手技など、形成外科の診療領域全般について概略を説明する。	山下 建
2	総論2：組織移植	形成外科治療の際に手技として用いる縫合法、皮膚を中心とした各種組織を用いた移植法(皮膚移植術、皮弁術を含む)について説明する。	山下 建
3	先天性疾患1：唇顎口蓋裂	唇裂・口蓋裂における形態、咬合、そして言語に対する治療について説明する。	権田綾子
4	先天性疾患2：頭蓋・顔面の異常	頭蓋骨縫合早期癒合症や頭蓋顔面領域の各種症候群、小耳症などの耳介形成不全など頭蓋、顔面の異常の診断と治療について説明する。	権田綾子
5	再建学1：褥瘡、難治性潰瘍、瘢痕、ケロイド	高齢化社会で問題となっている褥瘡、糖尿病性足潰瘍などの難治性疾患、外傷後・手術後に生じる肥厚性瘢痕、ケロイドに対する診断と治療につき説明する。	濱本有祐
6	再建学2：頭頸部再建	歯科口腔外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、消化器外科領域において各種疾患のために広範囲に切除をした後の欠損部に対し、様々な組織移植法を用いた	濱本有祐

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		再建外科の進歩について説明する。	
7	外傷学1：熱傷	火炎、熱湯などによる熱傷のうち、顔面熱傷、気道熱傷や、電撃傷などの初期治療と瘢痕に対する治療について説明する。	北田文華
8	外傷学2：外傷	創傷治療の基本、交通事故や労働災害等で生じる顔面の傷や顔面骨折に対する形成外科治療、および顔面神経麻痺に対する診断と治療につき説明する。	北田文華

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

定期試験 100%

**【参考書】**

鈴木茂彦 他 著「標準形成外科学（第7版）」医学書院 2019年

中塚貴志 他 著「TEXT形成外科学（第3版）」南山堂 2017年

朝戸裕貴 他 著「形成外科治療手技全書」克誠堂出版 2020年

**【学修の準備】**

参考書で、時課の授業範囲を予習し、前もって専門用語の理解につとめておくこと。（80分）

授業で配布した資料と参考書を用いて、授業内容についての理解を深めること。（80分）

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。